ホームページが新しくなりました。ＱＲコードを読み取り御覧ください。スマイル附属情報を様々に発信中です！

令和４年度　附属小学校だより

スマイル²ふぞく

第５号　令和４年９月１６日（金）　校長　古野　祐一

ルールとマナー！

８月３１日（水）の１学期後期開始式，子どもたちに話したのは，「ルールとマナー」のことでした。

１学期前期は，相手が幸せな気持ちになる挨拶で，スマイル附属をパワーアップしようと取り組み，これまで以上に気持ちの良い元気な声が，校内外で響き渡っています。

更に高まる共通取組としたのが「ルール」を守り，「マナー」良く行動することです。ルールとは，守るべき規則。スマイル附属という大きな木があるとすれば，その木を支える土の中の根っこが，ルールと言えます。ルールを守らず，根がぐらぐらするとスマイル附属という大きな木は，いずれ倒れてしまいます。マナーとは，自分の周りにいる人に対する心遣い，優しさです。給食準備の廊下で，「お先にどうぞ」「ありがとう」といったやりとりをよく見受けますが，附属の良いマナーの一つです。

登下校時や公共交通機関を利用する時，友達と一緒の時，一人の時，誰も見ていない時にこそ「ルールを守り，マナー良く行動する人」であってほしい。「北斗の子」と呼ばれる自覚と誇りをもって行動するよう期待し，声掛けを続けていきます。

給食準備で道を譲り合う子どもたち。

マナー良く給食配膳する１年生。

「当たり前」は変わっていく 次の「常識」を生み出す附属！

附属の研究が更に子どもたちの自主・自律を促し，自信を育むものとなるように，全職員で考え抜き改革に取り組んでいます。ここで中心になるのが松尾研究主任と野口研究副主任。二人を核にして，この夏は全国の先進的な取組をしている複数の学校とつながり，子どもが育つ「自律した学び」のある学校づくりに向かって議論を重ねてきました。これまで明らかにしてきた附属の強みである「考えが深まる授業」を土台にして，新しいステージを目指しています。これは，長崎の教育推進に貢献するという附属小の使命に，改めて真摯に向き合おうとしているからです。子どもたちに育ってほしいと期待している「一歩前へ，何度も挑戦」する姿を，教職員自らも実践しています。

何が「子どものため」に最適なのか熟考し，新しい時代を切り開き，未来を創る子どもが育つ研究を重ねていきます。

視察研修の報告をプレゼンする教職員。

夏の校内研修で議論を重ねる教職員。

※裏面に続きます！

笑顔の支え

先週の水曜日の朝一番，台風一過の校舎には，数名の６年生が箒を持ち，飛来物を集める姿がありました。誰に促されることなく，登校後直ぐに外に出て，黙々と木切れを集める。自ら判断して取り組む姿に自覚の高さを感じました。

６年生は，９月１日から長崎市小学校体育大会に向けた取組が始まりました。この取組で，全職員がよってたかって鍛え上げることで，６年生は心身ともに大きく成長します。その中で，橋元６年主任は，「判断力」を磨くことを大切にしています。日常生活でよい判断を繰り返すことが競技につながり，競技で身に付けた判断力が日頃の生活に生かされるということです。

判断力を磨く小体会

冒頭の自ら判断し動いた６年生の姿はまさに，小体会の取組を日常生活に生かしています。

この判断の基準になるのが「優先順位」です。自分より仲間のため，自分たちより下級生のため。そのような判断を日頃から行うことにより，世のため人のためにと，皆の幸せを考えることができる北斗の子に成長するのです。

さて，５時間目が終わった運動場には，低学年職員の姿があります。何より時間が貴重な教育実習期間ですが，６年生が最高の状態で練習ができるようにとラインを引き，グラウンドを整備しています。ここにも，何が大切か判断した職員の姿がありました。

教頭　橋田　晶拓

北斗の学び

優れた授業者になるために

教育実習も中盤を過ぎ，実習生は，２本目，３本目の授業を行っています。実習生の授業は，１本目より２本目，２本目より３本目の方が充実した学びになっています。では，授業は，回数を重ねればよりよくなっていくものなのでしょうか。

そもそも，優れた授業者の資質を突き詰めると，２つのことが必要だと言われています。それは，

① 子どもと感情的なつながりがあること。

② 授業を面白く，理解しやすく構成できること。

です。授業をうまく構成できても，子どもと関係性を構築できていない授業者や，優しく，話が上手でも，授業そのものをうまく構成できない授業者は，効果的に教えることはできないのです。

実習生は，ただ，授業の回数を重ねたから上達したのではありません。実習期間中，子どもと一緒に遊んだり，担任業務を行ったりしています。このような取組を通して，子どもと豊かに関わり，心を通わせ合っています。また，指導教官や実習生の授業を見ることで，授業の構成法や考え方を学んでいくのです。

よりよい北斗の学びを創るために，子どもと感情的につながり，授業を面白く理解しやすく構成できるよう，実習生と共に，学びの日々を続けます。

主幹教諭　吉田　公悦

潜入！附属小リアルスコープ

縁の下の力持ち

「気を付け，礼！」「よろしくお願いします！」

校舎のあちらこちらに響き渡る教育実習生の声。昼休みに全力で遊ぶ表情は，子どもを大切にする思いに満ちています。しかし，だからこそ，苦労して準備した授業が思い通りに進まず，その目が悔し涙でいっぱいになることもあります。

そんな実習生を中心となって支えるのが，実習担当の石司主任と田中副主任の二人です。実習全体の方向性を示し，職員団をまとめ，実習指導を行うのが主な役割です。具体的には，実習生への直接指導の他に，実習生の出退勤や体調，貴重品の管理，大学実習部との連携，朝礼や終礼での指導，一体感を高める実習生ミーティングの計画，教職志望率の調査，実習通信の作成，諸連絡の伝達，記録簿や各種レポート用紙の印刷，実習生の悩み相談･･･と，実に様々です。このような営みによって，実習生が安心して臨むことができる教育実習が形作られているのです。

子どもと同じように実習生も大切にする。そうすることで，子どもを何より大切にする先生が育つ。全国的に教員不足が危惧される昨今ですが，子どもと明るい未来を築き活躍する先生が一人でも多く生まれるよう，実習担当を中心に全力を尽くしてまいります。

教務主任　才木　崇史